■■各務原市立稲羽西小学校学校だより■Ｎｏ，１１■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

稲西っ子

学校の教育目標
「豊かな心で　ねばり強く　やりぬく子」
○よく考える子【知】
○認め合い高まる子【情・意】
○進んで体を鍛える子【体】

令和４年３月１１日発行

○　6年生を送る会から卒業証書授与式へ

ビデオメッセージを見る６年生

第２部の始まり　６年生入場

なかよしグループからのプレゼント

2月25日、まん延防止等重点措置期間中でしたが、6年生を送る会を、昨年度と同様の全校オンライン形式で行いました。

第一部では、各教室において、ビデオメッセージを視聴しました。あらかじめ作成されたビデオメッセージには、6年生との思い出を綴った場面が鮮明に示されています。コロナ禍であっても、感染症防止対策をしっかりととりながら、できることを見つけ、工夫を凝らしてメッセージを作成しました。ビデオメッセージを食い入るように見つめる6年生の姿が印象的でした。

昨年の6年生を送る会では、在校生のリーダーとして、企画、運営を進めていく中で、最高学年としての自覚を高め、リーダーとしてふさわしい言動がとれるようにと強く決心をしました。そしてこの1年、時に失敗し、時に挫折しながらも、決して諦めることなく全校の手本としての姿を示すため努力してきた 6 年生でした。稲西っ子の3つの宝物「あいさつ」「そうじ」「おもいやり」を5年生に引き継いだ場面では、これまでの思いがこみ上げてきたことでしょう。

第２部では、グラウンドでの感謝の会。いつもなら最後のなかよし活動として全校で一緒に遊ぶ企画もありましたが、今回も遊びはなく、なかよしグループ毎で、メンバー一人一人からのプレゼントを受け取った6年生でした。時間は短くても一人一人の顔は、とても晴れやかで誇らしく見えました。やれる範囲の中で、精一杯取り組む素敵な姿、どうすればうまくいくのか仲間と知恵を絞り、よりより方法を生み出そうとした姿･･･。充実した活動ができたこと、思いやり、優しさいっぱいの姿があふれる活動ができたと感じています。卒業まで、残りわずかとなりますが、一日一日を大切に、できる範囲の中で自分にできる精一杯の姿で小学校生活を締めくくってくれることを願っています。

また、在校生は、4月より1年進級しますが、やり残していることはないか自問させ、やりきることで、進級への期待を膨らませ、よい学年末を過ごさせたいです。

○　令和3年度も残りあとわずかに･･･

令和3年度も、コロナ禍の中、制約のある学校教育活動を続けることとなりました。しかし、その中であっても、「どうすればやりたいことができるのか」を真剣に考え、一つ一つ実行に移して実現させていくことができたと感じております。運動会は、平日に開催し、コロナ対応について万全を尽くしながら、全校がグラウンドに集まる形で開催ができました。4･5年の自然の家研修では、宿泊はしませんでしたが、1 日目に所員の方を学校に迎えた出前研修を、そして２日目は自然の家でしかできない活動を体験することができました。修学旅行も宿泊地での黙食や、バス席、入浴や布団の配置方法をなど徹底した感染症対策をとって臨み、安心した旅行が実現できました。また、日常の音楽や体育、家庭科等の学習活動も工夫を凝らすことで、停滞させることなく実施することもできました。そして iPad の導入により、学習の形態も少しずつ変化してきました。学習道具としての iPad 使用のルールの意味を子ども達自身も考え、必要なら自分達で新たなきまりを作り、そしてそれを守っていくことの大切さをしっかりと感じながら進めてきています。特に今後さらに家庭学習と授業をつなげていくこともこれからは大切になってくると考えられます。

最後になりますが、1年間、皆様の学校教育に対するご理解、ご協力ありがとうございました。コロナ禍にあってもなお子ども達の笑顔、ひたむきな姿がいっぱいあふれる稲西っ子達です。これもひとえに、毎日丁寧にお子様の健康観察をされ、マスクの着用や石鹸での手洗い、ソーシャルディスタンスの保持を常に声掛けをし、笑顔で学校へと送り出していただいている保護者の皆様の日々のご努力の賜です。心より感謝申し上げます。これからもコロナ対策は続けられていくこととなりますが、どうかこれからも、更なるご協力をよろしくお願いいたします。